

「Field Trip in East Asia (Taiwan) 参加報告書」

京都大学大学院 経済学研究科 博士課程 2 回生 竹下 伸一

今回初めて台湾を訪問でき産業界や経済分野の世界に向けた鋭く強い意欲を訪問先関係者から強く感じ良い体験となりました。

国立政治大学での 2 つの講義にあったように米中台の三カ国の関係がトランプ政権下で Pragmatism, Personality, Proximity への政策変容で微妙な段階に入った一方、ビジネス分野では政府の新産業政策に支えられ海外投資家による上場株式の保有が 40%にも増加しているのは台湾企業の成長への支持が高い事を示している。日本企業も学ぶべき点も多いと感じる。

台湾日本関係協会では学生から提出された事前質問表に対して主席が十分準備され大変率直で納得できる答えを返して頂き有意義な意見交換を長時間に亘り行う事ができ満足感を感じた。通常の儀礼的な感じが見られる意見交換会ではなく今後もこのような熱気を帯びた意見交換の機会を持ちたい。

LITE-ON 社の社内ツアーで会社の Optics と Power supply に関するコア技術に基づいた製品多様化の成果である新製品群を学べた。台湾企業はスマイル・カーブのボトムにあたる川中の付加価値の低い組立工程から出発し、これまでの期間に顧客の要求する仕様・品質に関する知識移転を通じて、アップストリームのデザイン・R&D 分野への進出を迫っている。自動車の CASE 化が進む中で車載関係部品分野への進出とキー部品から付加価値の高いサービス・ソリューション事業分野への進出を目指す事業戦略が説明された。世界のハイテック分野での変化を素早く捉え海外の先進国でのサービス・ソリューションを提供する経営戦略は日本企業も追及すべきモデルと強く感じた。また竹子湖のコメ研究所が日本による統治時代からの貢献の事例であった事をしり嬉しく思った。

新北市でのフィールド調査で日本の里山運動に範をとった持続可能な農業の現場とリーダー達と話し合う事ができ有意義であった。環境の破壊に心を痛めたリーダーによるドン・キホーテ式ではあるが冷静な挑戦の話には感銘を受けた。日本の過去の公害解決の歴史も先進事例となった様である。

台湾国立大学での W/S は一日中掛かる長丁場であったが参加者の丁寧な発表や Q&A を通じて多様な意見を汲み取る事ができた。私の発表にも先生方の質問とその後の意見交換でテーマを膨らませるアイデアを頂いた。また発表日までの先生方との数回の打合わせを通じたアドバイスで研究テーマの絞り込みを行う事ができこの事前準備のプロセスも重要で役立った。

かつての日本帝国の統治 50 年の影響は好悪の両面があるが、韓国とは違い台湾帝国大学の創設に始まる人的資源と産業の育成を統治政策の中心に置いた成果が戦後の経済成長の大きな原動力として現れた事は事実の様である事を感じられ嬉しかった。竹子湖の米博物館でも日本統治時代からの米の栽培技術の伝承や周辺の畑で日本式の石組方式を使った区割りや旧水車小屋遺構が今に残っていた。

台湾滞在中の 11 月 24 日（土）に投開票が行われる台湾の統一地方選挙に遭遇でき予想通り野党の大勝の結果となり蔡 英文総統が責任を取り与党民主進歩党の党首辞任申し出という政治の一大変化に立ち会えたのも貴重な経験であった。この統一地方選挙では、6 つの直轄市の市長から、各地方自治体の議員、そして町内会長にあたる「里長」までを一斉に選ぶという大掛かりなものであり、特に台湾の人口の 7 割が台北市や新北市といった直轄市に集中しており、市長選挙の結果がそのまま再来年 1 月の総統選挙に反映されるとあって、各党とも気の抜けない戦いが展開されていた。選挙の前に成年に達し、初めて投票権を得た若者たちを中国語で「首投族」と呼ぶのだそうだが、有権者とくに若者たちが悩む、就職や賃金といった問題への成果が、発表される数字ほど実感できないという不満が結果的に繋がっていたのかも知れない。